

2023年4月1、2日

2023年度 入学式 式辞

早稲田大学総長
田中愛治

新入生の皆さん、また、ご家族・ご親族の皆様、ご入学おめでとうございます。新入生の皆さんはもちろん、このたび入学される新入生を育て、支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

本来であれば、新入生の皆さんだけでなく、ご家族の方にもご参加いただきたかったのですが、コロナウイルスの感染を防ぐため、新入生だけの出席となっています。その点は、たいへん残念に思っております。

今年の新入生は、特別な思いを持って、入学されることでしょう。各学部への新入生の多くは高校生活のほぼ全てがコロナ・パンデミックによって自粛を強いられた3年間であったことと思います。大学院に入学される皆様も同じく、大学院進学準備をしながらも様々な苦労があったことと思います。

皆さんは、そうした辛い思いの中、不安と闘いながら、進学準備をされてきました。皆さんが、逆境をはねのけ、本日の入学式を迎えられたことに、心からお祝いを申し上げます。そして、敬意を表します。

ようやく、コロナ・パンデミックも終わりが近づいてきたように思えます。そのような明るいニュースとしては、昨年秋のワールドカップ・サッカーと、10日ほど前に終了したWBC (World Baseball Classic) での日本チームの活躍があります。その中で、私が興味深いと思ったことがあります。ワールドカップ・サッカーの日本代表チームは26人中18人がサッカーの本場のヨーロッパでプレイをしている選手でしたし、WBCの日本チームで活躍した大谷、ダルビッシュ、吉田、ヌートバーらはアメリカのメジャーリーグで活躍している選手でした。

このことは、スポーツに限らず、どの分野でも、世界で競争力をもって活躍するためには、一度は自分の国の外に住んで、異なる世界で鍛えられることが、とても有効なことだろうということを示唆していると思います。

実は、私自身も早稲田大学を卒業して、直ぐにアメリカに留学して10年半滞在し、大学院教育はすべてアメリカで受けました。そのことが、後に大変役に立ったと、今でもそのような機会を与えられたことを感謝しています。

皆さんも、在学中でも卒業後でも良いのですが、機会を見つけて、是非とも留学なり、海外で仕事をするなりして、ご自分を鍛えてください。きっと視野が広がると思いますし、自信もつくと思います。

私は、4年5ヵ月前の2018年11月に早稲田大学の総長に就任しました。総長に就任して以来、私は学生の皆さんに「たくましい知性」を鍛え、同時に「しなやかな感性」を育んでもらいたい、と言ってきました。これは、建学の精神に沿いながらも、新しく早稲田の教育方針を表現したものです。コロナ・パンデミックの経験により、この二つの言葉は、より現実味を帯びて、理解しやすくなりました。

「たくましい知性」とは、どのようなものでしょうか。今日、人類が直面する問題の多くは、答えのないものばかりです。たとえば、コロナ・パンデミックや、地球の温暖化、ロシア政府軍によるウクライナへの侵略が大きな問題になっています。これらの問題の解決策は、教科書にも専門書にも記されていない、正解のない問題です。コロナ・パンデミックも、誰一人正解を知らない問題の典型でした。このような「答えのない問題に、自分の頭で考えて、自分なりの解決策を考え出せる知性」を私は「たくましい知性」と呼んでいます。

ただし、未知の問題を自分の頭で考える際には、大学で修める学問が必要不可欠になります。学問とは、人類が文字を発明して以来、約5千年の人類の経験のエッセンスを体系的にまとめたものです。したがって、人類が過去に経験していない問題の正解は、学問の中に記されていないかもしれません。しかし、過去に人類が直面した未知の問題に、どのように人々が挑戦し、解決してきたかは記されています。つまり、答えのない未知の問題に、どう挑戦するかという方法論が、学問には体系的に示されているのです。ですから、学問を修めることをおろそかにしては、「たくましい知性」を鍛えることはできません。

もう一つの「しなやかな感性」を育むことも大切です。人類には、異なる国籍・民族・言語・宗教・文化・信条を持つ人がいるからです。異なる性別の人や性的少数者の人々もいます。それらの自分とは異なる人々の考え方や感じ方を理解できる感性を私は「しなやかな感性」と呼んでいます。

たとえば、ウクライナから早稲田大学に留学に来ている学生たちは、どんなに心細い思いをしているのでしょうか。あるいは、ロシアから早稲田大学に留学して来ている学生たちは、自分の祖国をどのように見つめているのでしょうか。また、他の国の人々に、ロシア人というだけで冷たい目で見られることを心配しているかもしれません。このように、異なる立場にある人に思いを寄せて、それぞれの人々がどんな辛い（あるいは悲しい）思いをしているかを肌で感じら

れば、「しなやかな感性」を持っていると言えるでしょう。

「しなやかな感性」を育むためには、自分と異なる人々に敬意をもって接し、理解することが重要です。早稲田大学は、そうした環境を創るために国際化を進めてきました。2019年度までは毎年8,000名を超える海外からの留学生が早稲田で学び、早稲田で学んでいる4,600名以上の学生を海外への留学に送り出していました。ところが、2020年度はコロナのために、それが途絶えました。

ただ、それらの苦勞を通じて、私たちは、コロナ・パンデミックの状況では、立場の弱い人々が、また貧しい国や地域の人々が、より感染しやすく、辛い立場に置かれることを学びました。そうしたコロナによる厳しい状況下で大学生となる皆さんは、より一層「しなやかな感性」を発揮しなければなりません。是非とも早稲田で、「しなやかな感性」を育ててください。

私たちは「たくましい知性」を鍛え、「しなやかな感性」を育むために、必要な教育環境を整えてきたという自負があります。なかでも、グローバル・エデュケーション・センター（GEC）という全学共通の教育センターは、学部の垣根を超えて、すべての学部の学生が履修できる科目を用意しています。そこには「基盤教育」と呼ばれる科目群があります。

「基盤教育」とは、大学で学問を修めるために必要となるアカデミック・ツール、学びのための方法論です。これらのアカデミック・ツールは、社会に出ても知的な職業では必ず有用なツールで、私たちは5つの「基盤教育」の分野を定めました。

第1は、日本語を母語とする学生に、論理的に日本語の書き方を教える「学術的文章の作成」です。第2は、英語の発話の力を養成する「Tutorial English」と、英語の論理的な文章の作成力を鍛える「AWADE (Academic Writing and Discussion in English)」です。これら論理的文章の作成は、アメリカやイギリスの一流大学でも、大学1年生に“Freshman English”として、必修にしています。早稲田のグローバル・エデュケーション・センターは、日本語と英語の双方の学術的文章の作成の科目を、どの学部の学生も履修できるようにしています。

基盤教育の第3は、文系のための数学入門です。「数学基礎プラス α 」とその上の「 β 」・「 γ 」が用意されています。第4は、「データ科学入門」で、人工知能を用いてビッグ・データを解析する基礎を学びます。その過程で統計学の入門も学べるという一石三鳥のお得な科目です。第5は、情報処理入門です。日進月歩の情報処理の方法論を毎年アップデートしながら、今後のデジタル・トラン

スフォーメーションに備えられるよう工夫されています。このような全学共通の基盤教育はグローバル・エデュケーション・センターで学べます。

このような学問を学ぶための基盤教育を受けられる教育環境を整備しているのは、現在の日本では早稲田大学だけです。また、世界的に見ても、これだけ整備している大学は数少ないと自負しています。

そして、皆さんは自分の学部で、さらにその上の専門分野を学習してください。そして、自分にとっては未知の問題の解決策を自分の頭で考え、それを論理的に他の人に伝えられなければなりません。

そのためには、早稲田大学でしっかりと学問を学ぶことが必要となります。それにより、卒業して社会に出てから活躍できます。むろん体育各部の部活動、サークル活動に力を入れることも、学生生活としては貴重でしょう。

さらに、就職のため、大学1・2年生のうち、インターンシップではなく、オープン・カンパニーという企業の案内や各業界の紹介などを学ぶ機会に参加することや、キャリア教育の授業を受講することも意味があります。しかし、早い学年からインターンシップをたくさん経験すれば、良い企業に就職できるという考え方は、もう時代遅れです。これからは、大学の授業でしっかりと学問を学び、その上で、機会があれば本格的なインターンシップを3年生の夏休みや冬休みで経験することが大切です。1年生・2年生のうちから授業そっちのけでインターンシップに力を入れていると、就職してから必要となる「たくましい知性」を発揮できなくなります。皆さんが、国際的に他国の方々と遜色ない形で、人類社会に貢献するためには、まずは大学で学問をしっかりと学ぶことが重要です。

また、早稲田大学のことも知っていただきたいと思います。一昨年に慶應義塾の塾長になられた伊藤公平先生とは親しくお話ししていますが、彼が就任してすぐに早稲田を訪ねていらしたときに、「早稲田がコロナ対策で最も優れていたから、どうしてあれだけ迅速に的確に対策を打ち出せたのか、教えていただきに来たのです。福澤諭吉先生は『自分より優れている者からは学べ』とおっしゃっていますので。」とおっしゃいました。数日後、私が「慶應義塾の学生も卒業生も皆さん、愛校心がとてもお強いんですよね。どうしてそのように学生を育てられるのですか。」とうかがいましたら、「慶應では新生全員に『福翁自伝』を配っているのです。」とお答えになりました。私もその点は慶應義塾に習って、皆さんに『大隈重信と早稲田大学』という新書を、2022年度の新入生からお渡しすることに致しました。是非、読んで、早稲田と創立者の大隈重信のことを学んでください。

最後に、早稲田大学は、学生の求めることは、ほぼ何でもできるような環境を整えています。学問・研究でも、体育各部の競技スポーツでも、サークル活動でも、ボランティア活動でも、様々な学生のニーズを満たすような多彩な環境があります。ただし、真剣に学問を学ぶことも忘れないでください。

ですから、皆さんは、早稲田では思う存分、勉強し、自分のやりたいと思う活動にも力を入れて、充実した学生生活を送ってください。4年後には、より逞しくなって、よりしなやかに輝いている皆さんを、今よりも輝いている早稲田大学が、送り出したいと思います。

To those incoming students who prefer English, I would like to welcome you briefly in English.

Congratulations on your admission to Waseda University, and welcome! Waseda offers you an environment in which you can thrive and excel.

I hope you will let your curiosity roam while you are here, and become an intellectually broader and more creative person than when you arrived.

I know you will work hard, but it is vital to take care of your emotional and physical health as well.

Enjoy rewarding activities, and invest in nurturing friendships.
Best wishes for your studies and student life at Waseda!

新入生の皆さん、ご入学、本当におめでとうございます！